PRESS RELEASE
2019.07.26

# 東京芸術祭 2019

## Tokyo Festival 2019

2019年9月21日(土)－11月23日(土･祝) 64日間

## 出会う。変わる。世界。

tokyo-festival.jp

**東京芸術祭**
**広報に関するお問い合わせ**

東京芸術祭実行委員会事務局　広報担当

TEL：050-1746-0996　(平日10：00-18:00)
E-mail：press@tokyo-festival.jp
Fax：03-3478-7218

# 目次

P1　東京芸術祭2019によせて　東京芸術祭 総合ディレクター　宮城 聰

P2-3　プランニングチーム

P4-5　東京芸術祭2019　全27プログラム

---プログラム紹介---

P6-8　東京芸術祭ワールドコンペティション2019

P9-16　公演・アートプロジェクト・人材育成

伝統芸能＠野外公園　IKEBUKURO薪能「能楽Quest」/ このほしでひとはおどる ―民俗舞踊フェスティバル― / 奈々福の、惚れるひと。/ 移動祝祭商店街 / NODA・MAP 第23回公演 Q：A Night At The Kabuki / BLIND / 三人姉妹 / 香料SPICE『新丛林 ニュー・ジャングル』/ 吾輩は猫である/ファーム / 暴力の歴史 / Strange Green Powder / Hand Saw Press『ひらけ！ガリ版印刷発信基地』/ NOWHERE OASIS / バーサよりよろしく / ドキュントメント「Changes」シーズン2 / オールウェイズ・カミングホーム（仮）/ みんなのシリーズ第4弾『能でよむ～漱石と八雲～』/ 大田楽 いけぶくろ絵巻 / コンドルズ×豊島区民 Bridges to Babylon―ブリッジズ・トゥ・バビロン―

トランスフィールド from アジア
ファンラオ・ダンスカンパニー『Bamboo Talk』『PhuYing』/ Sand (a)isles / To ツー 通 / やわらかなあそび/ トーク

APAF―アジア舞台芸術人材育成部門

P17　開催概要／ お問い合わせ

※記載内容は2019年7月26日現在の情報です
※プログラムの内容等は変更になる場合があります

PRESS RELEASE 2019.07.26

# 東京芸術祭2019によせて

東京芸術祭 総合ディレクター　宮城 聰

僕は、東京芸術祭の総合ディレクターに指名されて以来、「なぜ東京の演劇界が『閉じて』しまったのか」「その打開策はあるか」を考えるようになりました。

『閉じて』いる、というのは、つくる側と観る側を合わせた"演劇関係者"だけで自己完結して、「それ以外の人々」とまじわることなしに回転している、という意味です。

そして「これはひとつの成熟の結果だ」ということもわかってきました。たとえば二十数年前なら演劇人は「自分は演劇をやっています」と言ったところで日本社会で居場所が与えられるわけではなかったので、必然的に演劇とは無関係な人々との接点が必要になりました。しかしいまや大学の演劇コースは何倍にもなり、世間にも「演劇という仕事があるらしい」という認識は浸透しました。演劇に使われる公金も何倍にも増えたでしょう。そのためにひとつの「業界」的な円環ができあがったのだろうと思います。だとすると、このような自己完結に関しては、日本よりも前に演劇が社会的なポジションを獲得していた国々（つまりヨーロッパ諸国）の取り組みから学べることがまだまだあるだろうと思います。

しかしまた、東京演劇界にはヨーロッパ諸国とは異なる壁が立ちふさがっている、ということも考えました。

おそらくそれは日本に限らず、「なぜアジアの演劇は世界でのプレゼンスが低いのか」という問題につながっていると思います。

これは、なぜでしょうか？

そのひとつの理由が「いま世界で通用している演劇を測るモノサシはヨーロッパ製のものだけだ」という点にあることは間違いないでしょう。

しかしこれに単純に反発して「演劇にはユニバーサルなモノサシなど無い」と開き直ってしまうと、結果的に東京の演劇界はいっそう閉じてしまうでしょう。つまり「わかってくれる人だけがわかってくれればいい」となるか、もしくは「創造性とは他との比較が不可能なものだ」という安全地帯に立って「自分の話をする」演劇へと細分化されるか・・・。

アジアの、日本の、東京の演劇人がもっともっと地球規模で活躍する土台が出来れば、おのずと演劇人は「世界の観客」に向かって開いてゆくでしょう。東京芸術祭でそれにつながる突破口を設けることはできないだろうか、と考えたときに生まれたアイディアが「ワールドコンペティション」です。

このコンペティションは、既存のモノサシを以て作品の寸法を測ろうという企画ではなく、「新たなモノサシをつくる」ことに挑む試みです。そして同時に、演劇を測るモノサシなんて不可能だ、という諦めに対する挑戦でもあります。

世界中の芸術は、つくり手が「もっと良いものをつくろう」と切磋琢磨する中で生み出されてきたのではないでしょうか？ いま求められているのは、「良い」演劇作品とはどういうものかを測る尺度を増やしてゆくことだろうと僕は思っています。

**宮城 聰（みやぎ・さとし）**

1959年東京生まれ。演出家。SPAC-静岡県舞台芸術センター芸術総監督。東京芸術祭総合ディレクター。東アジア文化都市2019年豊島舞台芸術部門総合ディレクター。東京大学で小田島雄志・渡辺守章・日高八郎各師から演劇論を学び、1990年ク・ナウカ旗揚げ。国際的な公演活動を展開し、同時代的テキスト解釈とアジア演劇の身体技法や様式性を融合させた演出で国内外から高い評価を得る。2007年4月 SPAC 芸術総監督に就任。自作の上演と並行して世界各地から現代社会を鋭く切り取った作品を次々と招聘、またアウトリーチにも力を注ぎ「世界を見る窓」としての劇場運営をおこなっている。2017年『アンティゴネ』をフランス・アヴィニョン演劇祭のオープニング作品として法王庁中庭で上演、アジアの演劇がオープニングに選ばれたのは同演劇祭史上初めてのことであり、その作品世界は大きな反響を呼んだ。他の代表作に『王女メデイア』『マハーバーラタ』『ペール・ギュント』など。2006～2017年 APAF アジア舞台芸術祭（現アジア舞台芸術人材育成部門）プロデューサー。2004 年第 3 回朝日舞台芸術賞受賞。2005 年第 2 回アサヒビール芸術賞受賞。2018 年、平成 29 年度第 68 回芸術選奨文部科学大臣賞受賞。2019年 4 月フランス芸術文化勲章シュヴァリエを受章。

# プランニングチーム

東京芸術祭は 2018 年より、宮城聰総合ディレクターと各事業のディレクター7人が協働する「プランニングチーム」によって展開されています。

撮影：新良太

総合ディレクター

## 宮城 聰（みやぎ・さとし）

[ プロフィールは P 1 掲載 ]

## 河合千佳（かわい・ちか）

フェスティバル / トーキョー 共同ディレクター

武蔵野美術大学卒。劇団制作として、新作公演、国内ツアー、海外共同製作を担当。企画製作会社勤務、フリーランスを経て、2007 年、NPO 法人アートネットワーク・ジャパン（ANJ）入社、川崎市アートセンター準備室に配属。「芸術を創造し、発信する劇場」のコンセプトのもと、新作クリエーション、海外招聘、若手アーティスト支援プログラムの設計を担当。また同時に、開館から 5 年間にわたり、劇場の制度設計や管理運営業務にも携わる。2012 年、フェスティバル / トーキョー実行委員会事務局に配属。日本を含むアジアの若手アーティストを対象とした公募プログラムや、海外共同製作作品を担当。また公演制作に加え、事務局運営担当として、 行政および協力企業とのパートナーシップ構築、ファンドレイズ業務にも従事。2015 年度より副ディレクター。2018 年度より共同ディレクター。日本大学芸術学部演劇学科非常勤講師（2017 年～）。

Photo : Kazuyuki Matsumoto

## 杉田隼人（すぎた・はやと）

としま国際アート・カルチャー都市発信プログラム ディレクター

公益財団法人としま未来文化財団 事業企画課事業企画グループ

民間企業、公立ホール、ヨコハマトリエンナーレ 2011 PR 隊「ヨコトリキャラバンズ」事務局等での制作を経て、2012年より同財団に在職。現在までに「としま能の会」「民俗芸能 in としま」「ジュニア・アーツ・アカデミー狂言コース」「伝統芸能 in 自由学園明日館『獅子の祝祭』」などを担当。2016年より東京芸術祭参加作品「大田楽 いけぶくろ絵巻」を企画制作。南池袋公園を中心に、池袋の街中で上演、コスプレイヤーとのコラボレーションも話題となった。伝統芸能分野における新たな観客層の創出に努めている。

Photo : Kazuyuki Matsumoto

## 多田淳之介（ただ・じゅんのすけ）

APAF－アジア舞台芸術人材育成部門　ディレクター

1976 年生まれ。演出家。東京デスロック主宰。古典から現代戯曲、ダンス、パフォーマンス作品まで現代社会の当事者性をフォーカスしアクチュアルに作品を立ち上げる。子どもや演劇を専門としない人とのワークショップや創作、韓国、東南アジアとの海外コラボレーションなど、演劇の協働力を基にボーダーレスに活動する。2010年より富士見市民文化会館キラリふじみ芸術監督に公立劇場演劇部門の芸術監督として国内歴代最年少で就任、2019年3月まで3期9年務める。2014年「가모메 カルメギ」が韓国の第50回東亜演劇賞演出賞を外国人として初受賞。青年団演出部。四国学院大学、女子美術大学非常勤講師。東アジア文化都市2019年豊島舞台芸術部門事業ディレクター。

Photo：Kazuyuki Matsumoto

## 内藤美奈子（ないとう・みなこ）

芸劇オータムセレクション ディレクター

東京芸術劇場 制作担当課長

プロデューサー。東京大学文学部卒業。1985 年よりパルコ劇場にて、1998 年よりホリプロ・ファクトリー部にて、2010 年より東京芸術劇場にて、演劇・ダンス・ミュージカル・国際共同制作等の企画制作、海外公演の招聘などに従事。手がけた主な作品に、「THE BEE English Version」（野田秀樹作・演出）世界 10 都市ツアー、「トロイアの女たち」（蜷川幸雄演出／東京芸術劇場・テルアビブ カメリ劇場共同制作）、「おのれナポレオン」（三谷幸喜作・演出）、「リチャード三世」( シルヴィウ・プルカレーテ演出 )、「ラヴ・レターズ」（青井陽治演出）、ミュージカル「ファンタスティックス」（宮本亜門演出）、「タデウシュ・カントール&Cricot2 “くたばれ芸術家 ”“ 私は二度と戻らない ”」、ブロードウェイ・ミュージカル「CHICAGO」、ロイヤル・シェイクスピア・カンパニー公演など。 桜美林大学非常勤講師。

## 長島 確（ながしま・かく）

フェスティバル / トーキョー ディレクター

1969年東京生まれ。立教大学文学部フランス文学科卒。大学院在学中、ベケットの後期散文作品を研究・翻訳するかたわら、字幕オペレーター、上演台本の翻訳者として演劇に関わる。その後、日本におけるドラマトゥルクの草分けとして、さまざまな演出家や振付家の作品に参加。近年はアートプロジェクトにも積極的に関わる。参加した主な劇場作品に『アトミック・サバイバー』（阿部初美演出、TIF2007）、『4.48 サイコシス』（飴屋法水演出、F/T09 秋）、『フィガロの結婚』（菅尾友演出、日生オペラ 2012）、『効率学のススメ』（新国立劇場、ジョン・マグラー演出）、『DOUBLE TOMORROW』（ファビアン・プリオヴィル演出、演劇集団円）ほか。主な劇場外での作品・プロジェクトに「アトレウス家」シリーズ、『長島確のつくりかた研究所』（ともに東京アートポイント計画）、「ザ・ワールド」（大橋可也＆ダンサーズ）、『←（やじるし）』（さいたまトリエンナーレ 2016）など。東京藝術大学音楽環境創造科特別招聘教授。

Photo：Kazuyuki Matsumoto

## 根本晴美（ねもと・はるみ）

としま国際アート・カルチャー都市発信プログラム ディレクター

あうるすぽっと ( 豊島区立舞台芸術交流センター ) チーフプロデューサー

早稲田大学卒業後、劇団四季に社員として入社。翌年ニューヨーク大学大学院パフォーマンススタディーズ専攻へ留学。帰国後は、こどもの城に併設されていた青山劇場・青山円形劇場事業本部で、演劇・舞踊や子どものための舞台芸術の企画制作、またローザンヌ国際舞踊コンクール東京開催事務局、海外共同制作ミュージカルなどに携わる。1996年世田谷パブリックシアター開設準備室に入室。初の創造発信型公共劇場のプロデューサーとして、演劇、ダンス、子どもプロジェクト、ワークショップの企画制作、地方公共劇場との連携事業などを 19 年間手掛け、劇場のステイタスの確立に貢献。2016年4月より現職。

Photo：Kazuyuki Matsumoto

## 横山義志（よこやま・よしじ）

東京芸術祭国際事業 ディレクター

東京芸術祭ワールドコンペティション ディレクター

1977年千葉市生まれ。中学・高校・大学と東京に通学。2000年に渡仏し、2008年にパリ第10大学演劇科で博士号を取得。専門は西洋演技理論史。2007年から SPAC-静岡県舞台芸術センター制作部、2009年から同文芸部に勤務。主に海外招聘プログラムを担当し、二十数カ国を視察。2014年からアジア・プロデューサーズ・プラットフォーム（APP）メンバー。2016年、アジア・センター・フェローシップにより東南アジア三カ国視察ののち、アジアン・カルチュラル・カウンシル（ACC）グランティーとしてニューヨークに滞在し、アジアの同時代的舞台芸術について考える。学習院大学非常勤講師。論文に「アリストテレスの演技論 非音楽劇の理論的起源」、翻訳にジョエル・ポムラ『時の商人』など。舞台芸術制作者オープンネットワーク（ON-PAM）理事、政策提言調査室担当。

※50音順

# 東京芸術祭 2019　全 27 プログラム

2019 年 7 月 26 日現在

日本語上演/外国語字幕付き
外国語上演/日本語字幕または通訳付き
外国語上演/日本語及び外国語字幕付き

| | 日　程 | 公演・プログラム名 | ジャンル | 上演言語/字幕有無 | 会　場 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 9/21(土) | 伝統芸能@野外公園<br>**IKEBUKURO薪能**<br>**「能楽Quest」** | 能楽 | 日本語上演<br>日本語・英語・中国語(簡体)・韓国語字幕付 | 東池袋中央公園<br>特設能舞台 |
| 2 | 9/22(日) | 伝統芸能@野外公園<br>**このほしでひとはおどる**<br>ー民俗舞踊フェスティバルー | 民俗舞踊 | 日本語上演<br>字幕なし | 東池袋中央公園 |
| 3 | 10/1(火) | **奈々福の、惚れるひと。** | 伝統芸能 | 日本語上演<br>字幕なし | あうるすぽっと |
| 4 | 10/5(土),6(日) | **移動祝祭商店街** | アートプロジェクト/パフォーマンス | | 豊島区内商店街、<br>トランパル大塚 |
| 5 | 10/8(火)-10/15(火)<br>11/9(土)-12/11(水) | NODA・MAP 第23回公演<br>**Q：**A Night At The Kabuki | 演劇 | 日本語上演<br>英語字幕付の回あり(日時指定) | 東京芸術劇場<br>プレイハウス |
| 6 | 10/17(木)-20(日) | **BLIND** | 演劇 | 英語上演<br>字幕なし(一部通訳予定) | 東京芸術劇場<br>シアターイースト |
| 7 | 10/18(金)-20(日) | **三人姉妹** | 演劇 | ロシア語手話上演<br>日本語字幕付 | 東京芸術劇場<br>プレイハウス |
| 8 | 10/18(金)-20(日) | **香料SPICE**<br>**新丛林 ニュー・ジャングル** | 映像/音楽/パフォーマンス | | 東京芸術劇場<br>シアターウエスト |
| 9 | 10/19(土)-29(火) | **吾輩は猫である** | 演劇 | 日本語上演<br>字幕なし | 東京芸術劇場<br>劇場前広場 |
| 10 | 10/19(土)-20(日) | **ファーム** | 演劇 | 韓国語上演<br>日本語・英語字幕付 | あうるすぽっと |
| 11 | 10/24(木)-26(土) | **暴力の歴史** | 演劇 | ドイツ語上演<br>日本語・英語字幕付 | 東京芸術劇場<br>プレイハウス |
| 12 | 10/24(木) ,26日(土),27(日) | **Strange Green Powder** | ダンス | | 豊島区立目白庭園<br>赤鳥庵 |
| **ワールドコンペティション** | | | | | 東京芸術劇場 |
| 13 | 10/29(火) | **推薦人プレゼンテーション** | | | シンフォニースペース |
| | 10/30(水),31(木) | **推薦人トーク** | | | アトリエウエスト |
| | 10/30(水) | **可能性は風景の前で姿を消す** | 演劇 | スペイン語上演<br>日本語・英語字幕付 | シアターイースト |
| | 10/30(水) | **たびたび罪を犯しました** | フィジカル・シアター | 英語上演<br>日本語字幕付 | シアターウエスト |
| | 10/31(木) | **ハウリング・ガールズ** | コンテンポラリー・オペラ | | プレイハウス |
| | 11/2(土) | **紫気東来-ビッグ・ナッシング** | パフォーマンス | | シアターイースト |
| | 11/2(土),3(日) | **ソコナイ図** | 演劇 | 日本語上演<br>英語字幕付 | プレイハウス |
| | 11/2(土) | **汝、愛せよ** | 演劇 | スペイン語上演<br>日本語・英語字幕付 | シアターウエスト |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 11/4(月祝) | **審査会①②、授賞式** | | | プレイハウスほか |
| 14 | 11/2(土)-4(月祝) | **バーサよりよろしく** | 演劇 | 日本語上演<br>英語字幕付 | あうるすぽっと |
| 15 | 11/2(土)-4(月祝) | **ドキュントメント<br>「Changes」シーズン2** | 映画 | 日本語上映<br>字幕なし | 池袋HUMAXシネマズ |
| 16 | 11/8(金)-10(日) | **オールウェイズ・カミングホーム(仮)** | 演劇 | 日本語・英語上演 | 東京芸術劇場 シアターイースト |
| 17 | 11/9(土),10(日) | みんなのシリーズ第4弾<br>**能でよむ～漱石と八雲～** | 伝統芸能/<br>創作/文学 | 日本語上演<br>日本語・中国語・韓国語・英語字幕(予定) | あうるすぽっと |
| 18 | 11/10(日) | **大田楽 いけぶくろ絵巻** | パフォーマンス | 日本語上演<br>字幕なし | 東京建物 Brillia HALL、Hareza池袋 |
| 19 | 11/20(水)-23(土祝) | **Bridges to Babylon<br>-ブリッジズ・トゥ・バビロン-** | ダンス | 日本語上演<br>字幕なし | 東京建物 Brillia HALL |
| 20 | 10月下旬-11月中旬 | **NOWHERE OASIS** | アートプロジェクト | | 池袋駅周辺 |
| 21 | 10月中旬-11月中旬 | **Hand Saw Press<br>ひらけ!<br>ガリ版印刷発信基地** | アートプロジェクト | | 豊島区内某所 |
| **トランスフィールド from アジア** | | | | | |
| 22 | 10/25(金)-27(日) | ファンラオ・ダンスカンパニー<br>**「Bamboo Talk」「Phu Ying」** | ダンス | | 東京芸術劇場<br>シアターイースト |
| 23 | 10/28(月)-11/10(日) | **Sand (a)isles** | アートプロジェクト | | 豊島区内各所 |
| 24 | 11/2(土)-4(月祝) | **To ツー 通** | レクチャー･パフォーマンス | 日本語・英語上演<br>字幕未定 | シアターグリーン<br>BIG TREE<br>THEATER |
| 25 | 11/9(土),10(日) | **やわらかなあそび** | 映像/音楽/<br>パフォーマンス | 日本語上演<br>字幕未定 | |
| 26 | 11/2(土),3日(日)<br>9日(土) | **トーク** | トーク | 使用言語日本語<br>英語逐次通訳付(予定) | 東京芸術劇場シンフォニースペース、<br>GLOCAL CAFE<br>Ikebukuro |
| **APAF-アジア舞台芸術人材育成部門** | | | | | |
| 27 | 10/25(金),26(土) | **APAF Exhibition 公演** | 人材育成 | 上演言語未定<br>字幕未定 | 東京芸術劇場<br>シアターウエスト |
| | 27(日) | **APAF Exhibition ラップアップ** | | 日本語及びその他言語<br>日本語通訳付 | |
| | 27(日) | **APAF Lab.最終プレゼンション** | | 日本語及びその他言語<br>日本語通訳付 | |

**プログラム紹介/東京芸術祭ワールドコンペティション2019**

# 東京芸術祭ワールドコンペティション2019

10月29日(火)～11月4日(月･祝)　東京芸術劇場 プレイハウス/シアターイースト/シアターウエスト アトリエウエスト/シンフォニースペース

## 次代を担う表現者が世界から集結！
## 舞台芸術を評価する新たな「尺度」をここから生み出します。

舞台芸術の「優劣」を決めることは不可能だとよく言われます。しかしアーティストたちは、誰もが「より優れた作品」を目指して切磋琢磨しているのも事実です。確かにそこには世界的な競争があるのです。
では世界の舞台芸術がもっともっと豊かになってゆくにはいまどうすればいいのでしょうか？
アジアのアーティストが地球規模で活躍してゆくためにはいま何が必要でしょうか？
真っ先に挙げられるのは――舞台芸術を評価する「尺度」を新たに生み出してゆくこと！
きっとこれです。

「優れた作品」って、どういうことなのか。
それを観客のみなさんと一緒に考える、そんな「ワールドコンペティション」です。

東京芸術祭総合ディレクター　宮城 聰
東京芸術祭ワールドコンペティションディレクター　横山義志

東京芸術祭ワールドコンペティションでは、アジア、オセアニア、ヨーロッパ、アフリカ、アメリカの５地域と日本のアーティストの計６組が一堂に集い作品を発表します。

現在の舞台芸術界は、「演劇」、「ダンス」、「オペラ」･･･といった近代ヨーロッパでつくられた枠組みで動いています。しかし、グローバリゼーションを経て情報や人、物の流れが大きく変わり、アジアがふたたび世界経済の大きな担い手となりつつあるなか、その枠組みもまた、変化を迫られているのではないでしょうか。

本企画では、コンペティションという場を通じ、背景も価値観も異なるアーティストたちが出会い、舞台芸術の未来を共に考えるための議論を生み出します。

今回のコンペティションに参加する６組のアーティストは、光州アジア芸術劇場の初代芸術監督をつとめたキム・ソンヒやアヴィニョン演劇祭プログラムディレクターのアニエス・トロリーをはじめ、それぞれの地域で国際的な舞台芸術祭のプログラムを組むプロデューサーが推薦する、2030年代に活躍するはずの面々です。異なる社会的背景、異なる価値観を持った６つの作品を通して議論を行うことで、舞台芸術のあらたな観方を見出すことができるでしょう。

本企画で与えられる賞は主に３つのカテゴリに分けられます。**【アーティスト審査員賞】**は、ナンシー演劇祭の創立者として世界の舞台芸術を見つめてきたフランス元文化大臣ジャック・ラング審査員長のもと、各地域を拠点に世界的に活躍するアーティスト６名が公開討論を行い、決定されます。最優秀作品賞受賞作品は2020年秋の東京芸術祭で再演されます。また、パフォーマーやスタッフを対象にした賞も創設されます。**【批評家審査員賞】**は、各地域出身の舞台芸術に造詣の深い日本語話者６名の公開討論により選出されます。多様な背景を持った批評家たちによる討議は、「日本語話者のための批評言語」をより豊かにするものとなるでしょう。コンペティション終了後には、それぞれが執筆した講評も公開される予定です。そして、各作品を観劇する観客のみなさんにも**【観客賞】**への投票によって新たな価値観の創出にご参加いただきます。

さらに、会期中には、各地域のアーティストの推薦人によるトークイベントなど、作品についてより深く知り、語り合うための場がさまざまに用意されます。

つくり手と観客が共に、未来に向け、舞台芸術のあらたな価値を探す場＝東京芸術祭ワールドコンペティションに、ぜひ、ご参加ください。

**8月6日 OPEN！**

**東京芸術祭ワールドコンペティション2019特設サイト**
**http://tokyo-festival.jp/2019/world-competition**

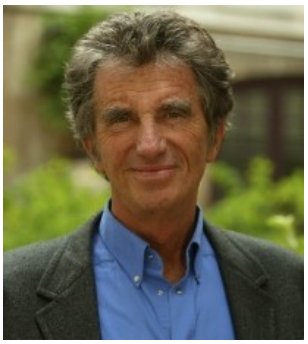
# 東京芸術祭ワールドコンペティション2019

**審査員長**

**ジャック・ラング**

**Jack Lang**

アラブ世界研究所理事長
フランソワ・ミッテラン政権文化大臣



**副審査員長**

**夏木マリ**

**Mari Natsuki**

Mari Natsuki Terroir (MNT)主宰

© HIRO KIMURA

**審査員**

| | |
|---|---|
| ヤン・ジョンウン | 演出家、韓国 |
| レミ・ポニファシオ | 振付家/演出家/舞台美術家、サモア |
| トーマス・オスターマイアー | 演出家/ベルリン・シャウビューネ芸術監督、ドイツ |
| ブレット・ベイリー | 劇作家/演出家/舞台美術家、南アフリカ |
| エミリー・ジョンソン | ダンサー/振付家、アメリカ |

**推薦人**

アジア、オセアニア、ヨーロッパ、アフリカ、アメリカの５地域と日本の各地域の舞台芸術シーンを創っているフェスティバルのディレクターやプログラムディレクターたちが、「まだ世界的には知られていないが、2030年代に重要になるであろうアーティスト」を推薦。東京芸術祭ワールドコンペティション2019で作品を発表します。

| | |
|---|---|
| キム・ソンヒ | インディペンデントキュレーター／プロデューサー/元光州アジア芸術劇場芸術監督/韓国 |
| スティーヴン・アームストロング | アジアTOPA クリエイティブディレクター／アーツセンター・メルボルン、オーストラリア |
| カルメン・ロメロ・ケロ | サンティアゴ・ア・ミル・フェスティバルエグゼクティブ・ディレクター、チリ |
| アニエス・トロリー | アヴィニョン演劇祭プログラムディレクター、フランス |
| キラ・クロード・ギンガネ | ワガドゥグ国際演劇・人形劇祭ディレクター、ブルキナファソ |
| 横山義志 | 東京芸術祭国際事業ディレクター |

## 参加作品

### 戴陳連(北京、中国)　『紫気東来-ビッグ・ナッシング』

戴陳連は1982年中国生まれのヴィジュアルアーティスト。中国美術学院卒業。演劇的なコンセプトとビデオを組み合わせた作品や、広告を介してメディアテクノロジーに大きく依存した現代社会を描く作品で知られている。
『紫気東来-ビッグ・ナッシング』は、幼少期の日常生活の想い出や中国・唐代（9世紀）の怪異記事集成『酉陽雑俎（ゆうようざっそ）』をもとに、夢と現実、怪談と個人的な記憶とが交錯する人形劇。戴陳連は自ら手作りの影絵を操り、時にその世界の住人ともなる。ほのぼのとしたユーモアが時として不気味な狂気を帯びる。(写真©Park Suhwan)

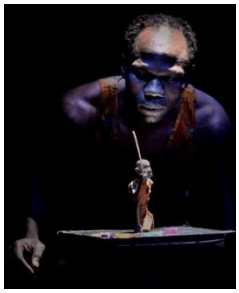
### シドニー・チェンバー・オペラ (シドニー、オーストラリア)　『ハウリング・ガールズ』

2010年ジャック・シモンズとルイス・ギャリックが創立、オーストラリア出身の作曲家による新作を多く手がける。
『ハウリング・ガールズ』はトラウマがテーマの言葉のないオペラ。2001年、ワールド・トレード・センターのテロ後、少女らが病院を訪れ、タワーの崩壊による建物や死体の破片が喉に詰まって呑み込めないと訴えた。言葉にならない声を発する女性たちの「ヒステリー」は、フェミニスト的視点では、家父長的制度の抑圧が身体化したものと考えられる。身体化された集団的トラウマが、言葉とジェンダーの新たな可能性を想像させる。(写真©Zan Wimberley)

### エル・コンデ・デ・トレフィエル (バルセロナ、スペイン)　『可能性は風景の前で姿を消す』

ターニャ・バイエラーとパブロ・ヒスベルトが2010年に結成、バルセロナを拠点に活動。
文学やヴィジュアルアーツ、ダンスの手法を使い、演劇的言語表現の限界を超えることを試みている。クンステン・フェスティバル、トランスアメリカフェスティバルなどの国際舞台芸術祭に参加。
4人のパフォーマーによるヨーロッパの都市が舞台の本作では、全ての瞬間を「楽しむ」ことが強迫観念のようになるなか、かつての「歴史」や「人生」や「出来事」の可能性が消え去っていく。自然が人間の行為の爪痕をいつの間にか覆い隠していくように。(写真©Claudia Pajewski)

### シャルル・ノムウェンデ・ティアンドルベオゴ (ワガドゥグ、ブルキナファソ)『たびたび罪を犯しました』



ブルキナファソ出身のシャルル・ノムウェンデ・ティアンドルベオゴは、ヨーロッパ近代仮面劇の技法を通じてアフリカの儀礼を捉えなおし、独自の身体技法を持つ俳優・演出家。
アカデミア・テアトロ・ディミトリでフィジカル・シアターの修士課程在籍中に構想した本作は、墓守が行う死者を呼び出す儀式により様々な霊が彼に取り憑いていく様を描く。汚職、血塗られた権力闘争、ジェノサイド･･･。野心と物質主義に導かれて生前に様々な悪事を働いた霊たちは、墓守の体を借りて汚名を返上しようとする。現代アフリカの病理をえぐり出す一人芝居。(写真©Dennis Yulov)

### ボノボ (サンティアゴ、チリ)　『汝、愛せよ』

2010年に俳優・演出家・劇作家パブロ・マンジと俳優・演出家アンドレイナ・オリバリにより結成。演出家、俳優、デザイナーなどが議論とリサーチを重ねて作ったテキストを戯曲としてまとめる手法で作品を創作。『野蛮人はどこに住む』でチリ美術批評家連盟賞などを受賞。クンステン・フェスティバル他、世界各国の国際舞台芸術祭に参加。
『汝、愛せよ』は、チリの医師たちの会話劇。「いかに差別を克服するか。暴力はなぜ生まれるのか。＜他者＞を愛することは果たして可能なのか。」といった問いをユーモアとアイロニーを込めて投げかける。(写真©Marcuse Xaverius)

### dracom (大阪、日本)　『ソコナイ図』

1992年大阪芸術大学の学生を中心に旗揚げされた劇団が、1998年にdracomと改名。
2007年、リーダーの筒井潤が京都芸術センター舞台芸術賞を受賞。
TPAM、精華演劇祭、フェスティバル/トーキョーなどにも参加。
年末、あるいは年始。部屋に姉妹がじっと横になっている。妹は姉が死んでいるのを知るのが怖くて声をかけられない。『ソコナイ図』は「都市で餓死は可能か」を主題に、資本主義経済が生みだした歪み、それが原因で生活が困窮した個人、個人への補完的役割を果たさない社会保障制度、を描くおかしみのある悲劇。

## プログラム紹介/公演・アートプロジェクト・人材育成

伝統芸能＠野外公園

### IKEBUKURO薪能 「能楽Quest」

（新演出能-能「皇帝･楊貴妃」「石橋」「小鍛冶」より）

構成・演出：観世喜正、奥川恒治（新演出）
出演：観世喜正、森常好　ほか

美女が舞い、獅子が跳ね、神が打つ。見所満載の新演出能！

さあ、能楽の世界を旅しよう。
能の古典「皇帝」「楊貴妃」「石橋」「小鍛冶」などを随所に散りばめ、オムニバス形式で見所満載の新演出。能楽の魅力を探求（クエスト）する新しい鑑賞体験。

9月21日（土）

会場:
東池袋中央公園
特設能舞台

能楽

郡上踊り保存会 Photo 梁丞佑

伝統芸能＠野外公園

### このほしでひとはおどる ―民俗舞踊フェスティバル―

出演:(予定) AYNURUTOMTE(アイヌ民族舞踊)
西馬音内盆踊り愛好会(西馬音内盆踊り)
郡上踊り保存会(郡上踊り) 長崎獅子連(長崎獅子舞)
新粋連(阿波踊り)
大石始(トークゲスト) 神野知恵(トークゲクト) ほか

昨年、輪踊りで盛り上がった「ひとはおどる」を今年も開催します！
今回の会場は、サンシャインシティ隣の東池袋中央公園！ 地域に根差した民俗舞踊が集結する踊りの祭典。
踊り手と観客が一緒に踊る「輪踊り」や「トークセッション」等で、民俗舞踊の魅力をお届けします。

9月22日（日）

会場:
東池袋中央公園

第2会場:
東武百貨店池袋店
８Fスカイデッキ広場

民俗舞踊

左から
神田松鯉、春風亭一之輔、玉川奈々福
©橋 蓮二

### 奈々福の、惚れるひと。

出演: 神田松鯉、春風亭一之輔、玉川奈々福／曲師・沢村豊子

浪曲師の玉川奈々福が日本の伝統話芸の分野で "惚れるひと"を紹介するシリーズの第2弾。 自身の芸を披露することはもちろん、奈々福の"惚れどころ"でナビゲート、 今年は神田松鯉（講談）と春風亭一之輔（落語）を招き入れます。 奈々福の惚れどころを通じてもっと話芸が楽しくなること間違いなしです。
年に一回のスペシャルな「奈々福の、惚れるひと。」にご期待ください。

【第1弾】 2018年10月10日（水）14:00 / 19:00
出演： 柳家喬太郎　玉川奈々福／曲師・沢村豊子　神田松之丞

10月1日（火）

会場:
あうるすぽっと

伝統芸能

Photo: Ryosuke Kikuchi

### 移動祝祭商店街

パフォーマンスデザイン：セノ派（舞台美術家コレクティブ）

「まち」を積み込み、「みち」を行く 舞台美術家が手がける
山車パフォーマンス

舞台美術家集団「セノ派」によるフェスティバル/トーキョー（F/T）オープニング作品。豊島区内の複数の商店街でのリサーチや交流をもとに、各商店街の記憶や歴史をモチーフにした山車（＝移動する商店街）を制作、練り歩きやイベントを行う。

10月5日（土）
10月6日（日）

会場:
トランパル大塚、豊島区内商店街（池袋本町エリア、大塚エリア、南長崎エリア）

アートプロジェクト/パフォーマンス

## プログラム紹介/公演・アートプロジェクト・人材育成

宣伝美術　佐野研二郎 曽我 貴裕

NODA・MAP 第23回公演

### Q：A Night At The Kabuki
Inspired by A Night At The Opera

10月8日（火）— 10月15日（火）
11月9日（土）— 12月11日（水）

演劇

会場:
東京芸術劇場
プレイハウス

作・演出　野田秀樹
音 楽　QUEEN
出 演　松たか子　上川隆也　広瀬すず　志尊淳
　　橋本さとし　小松和重　伊勢佳世　羽野晶紀　野田秀樹　竹中直人

あの「Queen」の名盤にインスパイアされた野田秀樹、渾身の最新作。
12世紀の日本を舞台に繰り広げられる「ロミオとジュリエット」の後日譚！

主催: NODA・MAP
(株)ソニー・ミュージックエンタテイメント
(株)ソニー・ミュージックパブリッシング

Photo: Patrick Argirakis

### BLIND

10月17日（木）—10月20日（日）

演劇

会場:
東京芸術劇場
シアターイースト

闇に踊る異形の影―妖しのパペット・ファンタジー。

オランダのデューダ・パイヴァ・カンパニーによる独特の造型のパペット（人形）を使ったパフォーマンス。デューダ・パイヴァ氏自身の過去の失明体験から創造された作品で、闇の世界に出現するクリーチャー（パペット）と絡みながらファンタジックな迷宮世界を展開する。

photo:Frol Podlesny

### 三人姉妹

10月18日（金）—10月20日（日）

演劇

会場:
東京芸術劇場
プレイハウス

全編手話による「三人姉妹」、心に響くチェーホフの真髄！

ロシアのレッド・トーチ・シアターによる「三人姉妹」。若き芸術監督ティモフェイ・クリャービンが仕掛けるのは、俳優が全て手話（ロシア手話）で演じるというスタイル。沈黙とノイズ、熱い身振りと息遣い、手話だけの舞台から、チェーホフ劇の核心が心の奥底に響いてくる。

香料SPICE

### 新丛林 ニュー・ジャングル

10月18日（金）—10月20日（日）

映像音楽パフォーマンス

会場:
東京芸術劇場
シアターウエスト

コンセプト・演出・出演：香料SPICE

エレクトロニック×ポップ、東洋×西洋 洗練されたミックスを体感する

現代中国カルチャーに注目してきたF/Tが、杭州を拠点に活動するサイケデリック・エレクトロニックグループ「香料SPICE」を初招聘。東洋的感性と西洋文化がミックスされたミステリアスな世界観が劇場に立ち上がる。

## プログラム紹介/公演・アートプロジェクト・人材育成

### 吾輩は猫である

原作:夏目漱石／脚本:ノゾエ征爾
演出: ノゾエ征爾

「ここに、出演しない人が写っています。 降板したわけではありません。池袋の住人です（たぶん）。みんなでニャーニャー言いながら歩いてみてくださいと、やってもらってるうちに、知らぬ間に紛れ込んでました。 ニャーニャーも言ってました。わりと張り切って。 近くにいた役者が言うには酒臭もすごかったようです。 そういうことです。 どういうことだ。 吾輩は猫である。 おぬしは何者である。 我々は何者で、何者は何者なのか。 約80人の、一人一人のドラマです。 そして、そこに紛れ込んで覗き見るあなたの。」(ノゾエ征爾)

10月19日（土）｜10月29日（火）

演劇

会場:
東京芸術劇場
劇場前広場

### ファーム

演出：キム・ジョン　作：松井 周

韓国演劇の新世代がしなやかに斬りこむ 生命とテクノロジー、人間の物語

韓国演劇の新世代演出家キム・ジョンが、F/Tで、初めての日本戯曲に挑む 。松井周が描く人工生命や再生医療技術が発達した近未来の物語が、緻密なテキスト解釈、大胆な空想力とユーモアで、あらたな表情を見せる。

10月19日（土）
10月20日（日）

演劇

会場:
あうるすぽっと

Photo: Arno Declair

### 暴力の歴史

原作 : エドゥアール・ルイ　演出 : トーマス・オスターマイアー
出演 : クリストフ・ガヴェンダ、ラウレンツ・ラウフェンベルク
レナート・シュッフ、アリーナ・シュティーグラー
演奏 : トーマス・ヴィッテ

社会に黙認された暴力の形を あなたはどう受けとめる？

ドイツ名門シャウビューネ劇場は、オブラートに包まれて本来の残酷さが見えにくくなっている現代社会の病理を抉る。トーマス・オスターマイアーの圧倒的な演出が私たちの視聴覚を刺激する。『暴力の歴史』は、フランスの人気作家エドゥアール・ルイの２作目だ。デビュー作『エディに別れを告げて』ではホモセクシャルとして男性優位主義のコンテクストの中で育ったことによる屈辱的な経験をつづっていた。今作では自身がパリでクリスマスイブに遭遇したレイプ事件にまつわる出来事を多層的に語る。作家が翻案に協力し舞台化に至った作品でもある。

10月24日（木）｜10月26日（土）

演劇

会場:
東京芸術劇場
プレイハウス

『workshop』より ©Shu Nakagawa

### Strange Green Powder（ストレンジ グリーン パウダー）

振付・演出：神村 恵

身体／音楽／美術／環境のコラボレーションから生まれなおすダンス

「ダンス」を通じ、身体やパフォーマンスをめぐる本質的な命題に向き合う神村恵がF/T初登場。音楽に髙木生（tnwh／noobtastic）、美術にミルク倉庫＋ココナッツを迎え、日本庭園内の茶室で新作を発表する。

10月24日（木）
10月26日（土）
10月27日（日）

ダンス

会場:
豊島区立目白庭園　赤鳥庵

## プログラム紹介/公演・アートプロジェクト・人材育成

Photo: minamiasami

**Hand Saw Press**

### ひらけ!
### ガリ版印刷発信基地

ディレクション：Hand Saw Press

「ZINE」から始める、広がる交流 F/T限定の印刷所がオープン

F/T会期中限定の印刷所を東京・豊島区にオープン。誰でも自分が伝えたいことを自由に綴る印刷物「ZINE」をつくることができる。
完成したZINEとZINEとを交換して、多様な考え、文化に触れよう。

10月中旬 | 11月中旬

会場:
豊島区内某所

アートプロジェクト

ノーウェア・オアシス
### NOWHERE OASIS

コンセプト・ディレクション：北澤 潤

ジョグジャカルタ式屋台と共に出現する どこにもないオアシス

インドネシア・ジョグジャカルタを拠点に活動する北澤潤が、日本在住のインドネシアの人々も巻き込み、現地でおなじみの屋台「アンクリンガン」のF/T版を複数、池袋周辺に出現させる。

10月下旬 | 11月中旬

会場:
東京芸術劇場
ほか

アートプロジェクト

photo:stw

### バーサよりよろしく

作：テネシー・ウィリアムズ　鳴海四郎 訳
演出：外輪能隆(EVKK)

とめどないしずくが舞台を、そしてそこに住まう娼婦を赤く染めていく本作は、惹きつけられる甘美さと、死をおもわせる腐臭が漂うものとなるだろう。

EVKK：1995年大阪で設立。繊細かつ緊張感のある演出に定評がある。戯曲のみならず小説・漫画なども題材にし、またオリジナルオペラの製作など分野をこえた活動も行っている。

11月2日(土) | 11月4日(月祝)

会場:
あうるすぽっと

演劇

ドキュントメント
### 「Changes」シーズン2

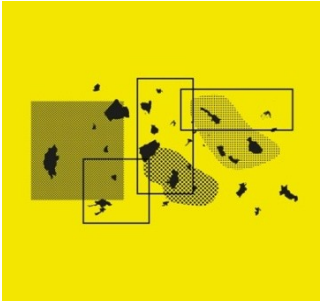
ディレクション：ドキュントメント

フィクションとノンフィクションの間から 俳優、演劇、人間を問う
F/T18で発表された『Changes』の続編。前作以上にフィクションを用いた構成は、演技と現実、創作と生活のはざまを、よりミステリアスかつスリリングに浮かび上がらせる。

11月2日(土) | 11月4日(月祝)

会場:
池袋HUMAX
シネマズ

映画



## オールウェイズ・カミングホーム（仮）

演劇

11月8日（金）｜11月10日（日）

会場:
東京芸術劇場
シアターイースト

演出：マグダ・シュペフト
テキスト・ドラマトゥルク：ウカッシュ・ヴォイティスコ
ドラマトゥルク：滝口 健

未来のユートピアってどんな場所？
国境、ジャンルを超えて編まれる劇場体験
F/T15『ポーランド演劇の現在形』にも登壇した若手演出家、マグダ・シュペフトがアーシュラ・K・ル＝グウィンの小説に着想を得た作品作りを行い、多様なメディアを用いて劇場に「ユートピア」を出現させる。

※アーシュラ･K･ルグウィンの『オールウェイズ・カミング・ホーム』より着想を得ています。
※日本・ポーランド国交樹立100周年記念事業に参加。

左上から
安田 登　玉川奈々福　塩高和之

みんなのシリーズ第4弾

## 能でよむ
## ～漱石と八雲～

伝統芸能/創作文学

11月9日（土）
11月10日（日）

会場:
あうるすぽっと

出演: 安田 登、玉川奈々福、塩高和之　他

「みんなのシリーズ」は、舞台芸術を楽しむ「初めの一歩」として、誰もが一緒に、舞台芸術に触れ、魅力、面白さ、醍醐味を感じてもらう企画です。 舞台芸術は“みんな”で楽しめるもので、劇場に足を運んでいただくハードルを下げ、新たな観客層との出会いの場を目標にしています。
第4弾では、夏目漱石の小説『こゝろ』の舞台にもなった豊島区にある雑司ヶ谷霊園には、夏目漱石と小泉八雲のお墓があり、そこから本企画がスタート。二人の作品を舞台化しレパートリーとして上演を重ねてきた能楽師の安田登と、あうるすぽっとがタッグを組んで、二人の奇妙な縁を“能”と“怪談”をキーワードに読み解きます。
〇演目「夢十夜より第三夜」「吾輩は猫である」「耳なし芳一」

©赤坂久美

## 大田楽 いけぶくろ絵巻

パフォーマンス

11月10日（日）

会場:
東京建物 Brillia HALL (豊島区立芸術文化劇場)、Hareza池袋

総合演出：野村万蔵
出演：野村万蔵　ほか総勢約１５０名

舞い遊ばん、躍り狂はん！

池袋で絵巻物が躍りだす！
華やかな衣裳、雅な音楽、躍動的な舞が織り成す大田楽が、見るものをいにしえの世界に誘う圧巻のパフォーマンス。
クリエイティブカンパニーNAKED(ネイキッド)が空間演出で華を添えるスペシャル版。

## プログラム紹介/公演・アートプログラム・人材育成

撮影：HARU

コンドルズ×豊島区民

### Bridges to Babylon

―ブリッジズ・トゥ・バビロン―

構成・映像・振付：近藤良平
出演: コンドルズ

ダンスカンパニーコンドルズを率いる近藤良平が構成・映像・振付を担い、東京建物 Brillia HALL (豊島区立芸術文化劇場) のために新作を創造します。祝う、祭、集う、楽しむ、情熱、など人間の活きる力となるキーワードをダンスという言語に置き換えて、音楽と映像を駆使し描きます。 もちろん子どもからおとなまで楽しめるよう、お得意の遊びのシーンもふんだんに盛り込みます。 また、豊島区民にも広く参加を呼びかけ、ダンスシーンを共に創ります。何にも代えがたい舞台空間 が奏でる高揚感と充実感を、舞台と客席とで感じられる作品です。

11月20日(水)｜11月23日(土祝)

ダンス

会場:
東京建物 Brillia HALL (豊島区立芸術文化劇場)

**トランスフィールド fromアジア**

舞台芸術が持つフィクションの力は、都市にどのように働きかけるのでしょう。2018年からのフェスティバル/トーキョーは、自らを「人と都市から始まる舞台芸術祭」と称し、さまざまなプログラム＝場を東京のまちなかに組み込んでいます。
そのひとつが新シリーズ「トランスフィールド from アジア」。F/T14以後行われてきた国別の特集「アジアシリーズ」を、国や分野の境界が融解するアジア全体の状況を取り上げるものとしてアップデートしたF/T18「トランスフィールド」での出会い、協働作業は、アジア発の横断的な文化の可能性をあらためて実感させるものでした。この新シリーズでは、その経験をさらに深め、観客の皆さんと共に、これからのアジアの文化を築く原動力となる場を目指していきます。

共催：国際交流基金アジアセンター

トランスフィールド from アジア
ファンラオ・ダンスカンパニー

### 『Bamboo Talk』（バンブー・トーク）『PhuYing』（プニン）

振付：ウンラー・パーウドム、ヌーナファ・ソイダラ

伝統と現代文化が共に生きる "ラオスに耳を傾ける"ダンスカンパニー

ラオスのダンスシーンを牽引するカンパニーがF/T初登場。ブレイクダンスと伝統武術/音楽を用いラオス南部の文化を伝える男性デュエット『Bamboo Talk』と、女性ダンサー3名で現代ラオス女性のリアルを描く『PhuYing』の２作。

10月25日(金)｜10月27日(日)

ダンス

会場:
東京芸術劇場 シアターイースト

トランスフィールド from アジア

### Sand (a)isles（サンド・アイル）

演出・設計：JK・アニコチェ×山川陸

私が変われば都市が変わる あたらしい過ごし方のための体験型パフォーマンス

マニラを拠点に活動するパフォーマンス・メイカーのJK・アニコチェと若手建築家の山川陸が、F/Tトランスフィールド from アジアのコンセプトのもと、マニラ、ビエンチャン、東京などでのリサーチを経て制作する体験型パフォーマンス。

10月28日(月)｜11月10日(日)

アートプロジェクト

会場:
豊島区内各所

## プログラム紹介/公演・アートプログラム・人材育成

トランスフィールド from アジア

### To ツー 通（ツー ツー ツー）

企画・出演：オクイ・ララ×滝 朝子

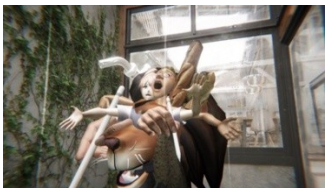
日本から故郷へ、故郷から日本へ。境界を越えるモノたちの物語

マレーシア出身で、移民や移動に着目してきたオクイ・ララと多文化コミュニティにおける制作を続ける滝朝子の二人が、海を越えてやりとりされる「モノ」を題材にした、レクチャー・パフォーマンスをF/Tで行う。

11月2日（土）｜11月4日（月祝）

会場：シアターグリーン BIG TREE THEATER

レクチャー・パフォーマンス



トランスフィールド from アジア

### やわらかなあそび

演出・出演：谷口暁彦

ここはどこ？　そこにいるのは？

バーチャル空間で軽やかに問われる「境界」

現実と仮想空間の境界線を再定義し続けるメディア・アーティスト谷口暁彦が、国境やジャンルを超えるF/Tのコンセプトをベースに、特定の場所や身体を必要としない劇場作品の「上演」に取り組む。

11月9日（土）11月10日（日）

会場：シアターグリーン BIG TREE THEATER

映像/音楽/パフォーマンス

トランスフィールド from アジア

### トーク

東南アジアの最新カルチャーを紹介してきたF/Tが、ブルネイやバンコクなどで活躍するプロデューサーや批評家らを迎え、国や分野の枠組みが混ざり合う〈トランスフィールド〉な現状について、参加者と共にシェアする場を設けます

11月2日(土)

**批評から見る<トランスフィールド>**

会場:東京芸術劇場シンフォニースペース
アジアン・アーツ・メディア・ラウンドテーブル

11月3日(日)

**ブルネイのアートシーン**

会場:GLOCAL CAFE Ikebukuro
登壇者:リサ・アフマド

11月9日(土)

**東南アジアから見る<トランスフィールド>の未来**

会場:GLOCAL CAFE Ikebukuro
登壇者:ササピン・シリワーニット

11月2日（土）11月3日（日）11月9日（土）

トーク

人材育成

10月25日(金)
|
10月27日(日)

会場:
東京芸術劇場
シアターウエスト

# APAF — アジア舞台芸術人材育成部門
## [Asian Performing Arts Farm]

次代のアジアの舞台芸術シーンを耕すアーティスト、プログラムを輩出する、アジアの "Farm" が開園

©松本和幸

©松本和幸

10月25日(金)、26日(土)

### APAF Exhibition 公演

次代のアジアの舞台芸術を担うアーティストによる
国際コラボレーション

昨年の参加者であるイッサ・マナロ・ロペス、京極朋彦を中心に、東南アジアや日本を含む東アジアからの参加者が、異なる演劇のあり方や創作方法について、気づき、発見しながら、集団的創作を試みます。

10月27日(日)

### APAF Exhibition ラップアップ

Exhibition参加者が共同制作の経験や収穫を振り返る

共同制作を振り返り、今回の参加によって参加者たちの活動に対する意識がどのように変わったか、交流や創作を通じて自身のフィールドに持ち帰れる収穫は何かなどを振り返ります。

### APAF Lab. 最終プレゼンテーション

ジョグジャカルタと東京で掘り下げた自身のテーマの最終発表

完成度よりもプロセスや今後の可能性を重視する場がAPAF Lab。ジョグジャカルタと東京でのディスカッションやリサーチを経た最終公開プレゼンテーションでは、それぞれの創造の種をプレゼンテーションします。

**東京芸術祭2019 連携事業**

## 第31回池袋演劇祭
9月1日(日)-9月30日(月)

会場:あうるすぽっと　ほか15会場
主催: 池袋演劇祭実行委員会

**東京芸術祭2019 特別公演**

## 本物の芸に酔う
## 「近松二題〜鶴澤清治の芸」
11月28日(木)

会場:LINE CUBE SHIBUYA
主催:公益財団法人東京都歴史文化財団
アーツカウンシル東京

# 開催概要

東京芸術祭とは　2016年に開始した、東京の多彩で奥深い芸術文化を通して世界とつながることを目指した都市型総合芸術祭です。東京の芸術文化の魅力を分かりやすく見せると同時に、東京における芸術文化の創造力を高めることを目指しています。

名　称：　東京芸術祭2019（英語名称：Tokyo Festival 2019）

会　期：　2019(令和元)年 9 月 21 日(土)～ 11 月 23 日(土・祝) 64 日間

会　場：　東京芸術劇場及び劇場前広場、あうるすぽっと（豊島区立舞台芸術交流センター）、東池袋中央公園、東京建物 Brillia HALL (豊島区立芸術文化劇場)、シアターグリーン　ほか東京・池袋エリア

プログラム数：公演・アートプログラム・人材育成　27プログラム(予定)、他に関連企画も予定

主　催：　東京芸術祭実行委員会［豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、フェスティバル/トーキョー実行委員会、公益財団法人東京都歴史文化財団 (東京芸術劇場・アーツカウンシル東京）］

東京芸術祭2019は東アジア文化都市2019豊島と連携して開催いたします。

令和元年度 文化庁
国際文化芸術発信拠点形成事業
(豊島区国際アート･カルチャー都市推進事業)

一部事業については、文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会との主催により開催します。

■東京芸術祭に関する最新情報を随時配信いたします

**｜ Web サイト http://tokyo-festival.jp/**

**Facebook @tokyofestivalsince2016　/　Twitter @tokyo_festival　/　Instagram @tokyo_festival**

■東京芸術祭チケットは、こちらから予約できます (一部取扱いのない演目あり)

**｜ 東京芸術祭チケットセンターWeb サイト　http://tokyo-festival.jp/2019/ticket**

チケットお問合せ

**｜東京芸術劇場ボックスオフィス**

窓口　10:00-19:00 (東京芸術劇場1階/休館日を除く)

電話　0570-010-296(ナビダイヤル) 10:00-19:00(東京芸術劇場休館日を除く)

**[ 報道関係お問い合わせ先 ]**

▶本プレスリリースのPDFや画像データがご入り用の場合は下記までお知らせください。

※画像の掲載、東京芸術祭や作品に関する情報を掲載いただける折には、下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

▶ 東京芸術祭・本リリース・記者発表に関するお問い合わせ

**東京芸術祭実行委員会事務局　広報担当** (宮村、千徳、大島、小仲)

**TEL：050-1746-0996**

**E-mail：press@tokyo-festival.jp**

〒 102-0073 東京都千代田区九段北4 - 1 - 28九段ファーストプレイス８Fアーツカウンシル東京内